

## 第6学年1組 体育科学習指導案

平成28年11月22日（火）第5校時

児童数 23名(男子11名女子12名)

指導者 土屋智治

場所 体育館

1 単元名 バスケットボール（ボール運動 ゴール型）

2 単元設定の理由

（1）児童の実態について

本学級の児童は欠席も少なく元気であり、体育学習にも意欲的に取り組んでいる。男女の仲も良い（支援学級の女子児童1名含む）が、積極的にグループで活動することが得意な児童と、消極的になりがちな児童が見られる。

3、4年生の時にはポートボール、5年生の時にはバスケットボールの学習をしてきている。また、地域の少年団に所属している児童が男子1名、女子2名いる。

ネット型のボール運動ソフトバレーボール（5月）では、勝負に強いこだわりを持つ児童も見られたが、一緒に練習をしたり、友達と言葉かけをしたりする中でチームへの所属感が生まれ、良い雰囲気ですべてを終えることができた。

運動に関わる実態調査（平成28年9月2日実施 調査人数23名）から、体育を好きと答えている児童は7割である。また、バスケットボールの授業が楽しくないと思う児童の理由には「友達に文句を言われた時」「やる気なさそうにやっている時」などがあつた。つまり、得意な子と自分を比べると劣っていると感じたり、楽しさを十分に感じられていなかったりする実態がある。

（2）単元について

バスケットボールはゴール型のボール運動であるため、コート内で攻守が入り交じり、手を使って一定時間内に得点を競い合うことを課題としたゲームである。そのため、1人でゲームを進めることができず、ボールをもらいに行くために声をかけ合ったり、フォローをしたりしなければならず、自然に関わり合いが必要になってくる運動である。また、経験が少ないためにゲームを行うのに必要な基礎的な技能の習得や練習の方法、ルールの理解が不十分で、学習の進め方によっては、児童が意欲をなくしてしまうことが考えられる。

### (3) 指導について

児童一人一人の思いを生かした授業を行うために、「①どの児童（チーム）も勝てる機会を設ける」、「②友達や教師からたくさん言葉かけをされたり、声をかけあったりする（自己有用感につながる）」ことが大切になる。また、態度面として、「①チームワークを大切に楽しくやる」、「②ミスした人をせめない」ことから、仲間と関わり合うことによって運動の楽しさや特性を味わわせる指導をしていきたい。

## 3 研究主題との関わり

本校では、研究主題を「まごころをつくしあい、みんな仲よく、たゆまず学び続ける児童の育成」として研究を進めている。

本時は、人権教育上のねらいを普遍的な課題「コミュニケーション能力」におき、お互いのよさやちがいを認め合い、助け合う中で人間関係の基礎的なことを身に付けさせたい。

#### 【手立て①】グループごとにポイントをおさえた教え合い

毎回の主運動の始めに、動きのポイントや言葉かけを確認する時間を設ける。特に、単元の始めの方は、教師の言葉かけを多くし、丁寧に指導していく。また、児童同士でもルールやチームの作戦などをお互いに確認し合ってから活動を始める。

#### 【手立て②】児童同士の肯定的な言葉かけ

教師による言葉かけが少ないという児童の実態調査の結果から、教師による言葉かけのモデリングを行い、児童同士の言葉かけにつなげる。また、チームの雰囲気高めるためのファイトコール、ハイタッチなどを行う。

#### 【手立て③】バスケの木（友達のいいところを見つけよう）

学習カードに①友達に言われてうれしかった言葉（意欲面）と②自分の勉強になった言葉（技能面）に分けて、毎時間書く。感想発表や次時の始まりでの発表、クラスに常時掲示しておくなど、自分の言葉がクラスに還元されるようにして、自己有用感を高める。

#### 【手立て④】診断的授業評価や形成的授業評価、児童の言葉かけの分析

単元前後の診断的授業評価や形成的授業評価を行うことにより、どんな手立てが有効だったかを検証する。また、毎時間教師や友達から言葉かけがあったか、可能ならどんな言葉かけがあったかなども検証する。（最終ページ参照）

→「守る」では、“話を聞く”や“ルールを守る”など、高い数値が表れた。

→「できる」の中でも、“私は上手に運動ができる方だと思います”（運動有能感）が全項目中で最も低かった。

4 単元の目標

- (1) 運動に進んで取り組み、ルールを守り、助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 (関心・意欲・態度)
- (2) ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。 (思考・判断)
- (3) ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防することができるようにする。 (技能)

5 単元の計画 (7時間扱い) ※本時は○印 4 / 7時

時間	1	2	3	④	5	6	7	
ねらい	○用具の準備や片付けで分担された役割を果たそうとしている。	○ボールのパスやシュートが正確にできる。	○ボールをもらえるところへ動くことができ、フリーの味方にパスが出せる。	○得点しやすい場所へ移動し、パスを受けてシュートすることができる。	○チームの特徴に合った作戦を立てている。	○チームの課題を知り、それに合った作戦を立てて、ゲームをしている。	○ルールやマナーを守り、友達と助け合って運動しようとしている。 ○パス、ドリブル、シュートの技能を身に付けてゲームすることができる。	
指導の内容	・学習の進め方 ・チーム編制 ・運動の行い方	・パスの種類 ・シュートの仕方	・ボールを持たない時の動き	・ボールを持たない時の動き ・ボールをもらいに行く動き	・チームの特徴の把握	・チームに合った作戦	・チームに合った作戦の確認	
学習過程	1 オリエンテーション ・学習の進め方 ・準備、約束の確認		1 集合整列・あいさつ・健康観察・準備運動・用具の準備					
	2 ボール慣れの運動 1人で、グループで		2 ドリルゲーム (1) ドリブルパス・対面パス・シュート (2) パス&パス・ドリブルシュート					
	3 チーム編成	3 ドリルゲーム	3 本時のめあての確認					
	4 ドリルゲームのやり方	4 タスクゲームのやり方	4 チームごとの話し合い・練習 (タスクゲーム)					
	5 ピボット	5 試しのゲーム	5 メインゲームⅠ ・はじめの簡単なルールで練習試合 (ハーフコート)	5 メインゲームⅡ ・工夫したルールでリーグ戦 (オールコート)				
	きりりタイム (メインゲームの中で随時入れる)							
6 後片付け・まとめ・次時の予告・整理運動・あいさつ							まとめ	
評価計画	関	○					○	
	思			○		○	○	
	技		○		○		○	
	方法	観察	観察	学習カード	観察	観察 学習カード	観察 学習カード	観察 学習カード
	場面	1、6	4、5	5	5	4、5	4、5	5、6

6 人権教育上のねらい（普遍的な課題「コミュニケーション能力」）

友達のよさやちがいを認め合い、助け合う中で、人間関係の基礎的なことを身に付ける。

7 人権教育上の視点

- (1) お互いのよさやちがいを大切にし、共通の目標に向かって努力する態度を育てる。  
(価値・態度)
- (2) 互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーション能力を高める。(技能)

8 本時の学習と指導（本時4 / 7）


- (1) ねらい 得点しやすい場所へ移動し、パスを受けてシュートすることができる。  
(技能)
- (2) 準備 バasketボール、得点板、ストップウォッチ、ホイッスル、掲示物  
学習カード、ビブス（4色）、作戦ボード

(3) 展開

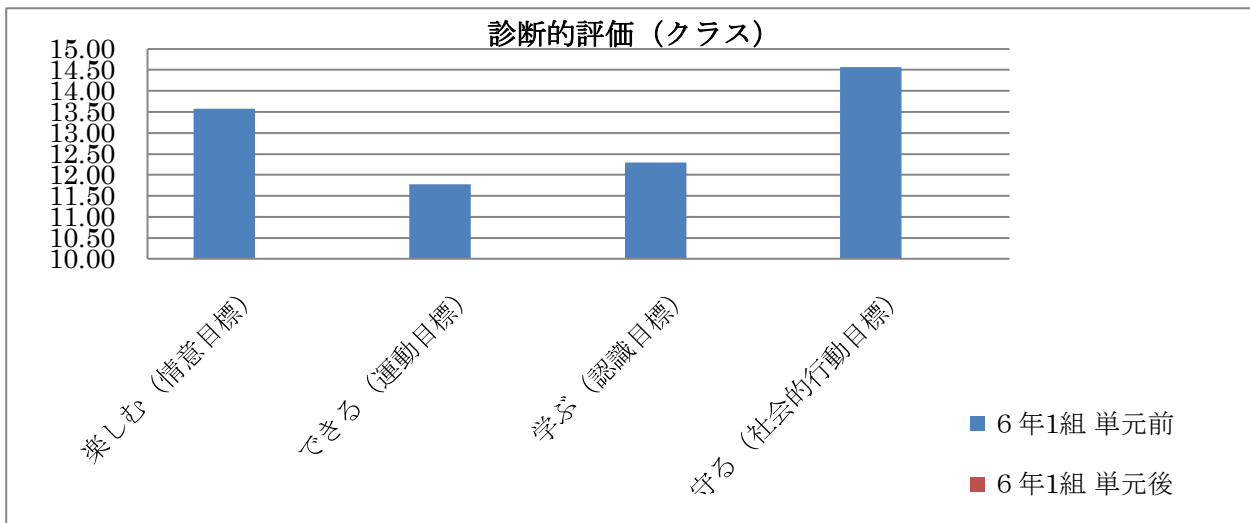
◎人権教育上の配慮

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 13分	1 集合・整列・挨拶・健康観察  2 準備運動  3 慣れの運動 <ドリルゲーム> ・シュート ・ドリブルパス ・対面パス ・ドリブルシュート	○素早く集合・整列させ、元気のよい挨拶で学習を始める。顔の表情を観察し、健康状態を把握する。 ○準備運動はチーム毎に円になって、本時の運動に必要な部位を意識させながら行わせる。 ○慣れの運動を始める前に、チームごとにファイトコールを行わせ、各チームを称賛する。 ○ドリブルのスピードを少しずつ上げていくようにさせる。 ○仲間にとりやすいパスができるよう、丁寧に行わせる。 ○単元を通して動き方や姿勢など技能の向上が見られるところを具体的に称賛する。 ○一つ一つの動きを正確に行っているか確認し、ねらいからはずれた動きをしている児童を指導する。
展開 25分	4 本時のねらいの確認  5 メインゲーム ○チームでの話し合い（練習：タスクゲーム）を行う。 ・チームの作戦、個人のめあてを確認する。 ・対戦相手、コートを確認をする。 ・ルールの確認をする。 ↓ ○ゲーム① ↓ ○きらりタイム （示範・作戦・練習） ↓ ○ゲーム②	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">                         得点しやすい場所へ移動してシュートしよう！                     </div> ○「ボールを持たない時、どこに移動すればいいか」を考えさせる発問をし、思考・判断と動きをつなげる時間とする。（AL：話し合う視点を明確化させる） ○前時のまとめや作戦ボードを活用しながら、チームの作戦や各自のめあてを確認させる。 ○ボールを受けたらゴールに体を向け、シュートできるか判断させる。 ○判断に迷っている場合には、仲間が「パス！」「シュート！」などと声をかけるよう助言する。 ○パスをもらうための動きを考えさせ、ゲームで生かせるようにアドバイスする。 ○ボール保持者と自分の間に相手がいないように動くアドバイスをする。 ○タスクゲームでは2対1（3対2）の攻守交代制で、動きや作戦を確認しながら行わせる。



	<p>&lt;1ゲームの展開&gt;(12分)</p> <p>第1ピリオド(3分)→チームタイム(1分半)→第2ピリオド(3分)→チームタイム(1分半)→第3ピリオド(3分)</p> <p>&lt;ルール&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体接触を避ける</li> <li>・ドリブルをして止まったらパス、ピボットのみ</li> <li>・得点が入ったら中央からリターンボール</li> <li>・持っているボールをたたいたり、奪ったりしない</li> <li>・フリーシュートゾーンでは守備はつけない</li> <li>・枠線1点、イン2点、各プレイヤーの最初のゴールは+3点</li> </ul>	<p>◆得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートすることができる。(観察)【技能】</p> <p>【十分満足できると判断される状況(A)の児童の具体的な姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディフェンスの動きを見て、相手のいないスペースに動き、正確にシュートすることができる。</li> </ul> <p>【努力を要する児童(チーム)への手だて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動きがわからない児童には、味方からボールの受けやすい位置(フリーシュートゾーンなど)を、近くに行って指示する。</li> </ul> <p>○すばやく集合・整列・あいさつをして、ゲームに取り組めるようにする。</p> <p>○ゲームの時間は放送で知らせ、それに従って進行する。</p> <p>○チームの意識を高めるために、ファイトコールやドンマイコールをかけさせる。</p> <p>◎きりりタイムで見た友達のよい動きを称賛し、次のゲームでまねさせたり、教え合わせたりする。(技能)</p> <p>○作戦がうまくいっていないチームには、教師が話し合いに入り、課題を把握させる。</p> <p>○よい動きや言葉かけの上手な児童を称賛する。</p> 
<p>整理 7分</p>	<p>6 後片付け</p> <p>7 本時の学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整理運動・あいさつ</li> </ul>	<p>○協力して安全かつ素早くできているか確認する。</p> <p>○今日の記録から結果(得点)を発表する。</p> <p>◎意欲的に活動していた児童や協力していたチーム及びめあてを達成できた児童等を称賛し、称え合う。</p> <p>○次時の予告をし、意欲付けを図る。(価値・態度)</p> <p>○けが等がないか確認し、気持ちのよいあいさつで学習を終える。</p>

[各項目15点満点で算出される。下記の表は、単元前である。(平成28年5月27日実施 調査人数23名)]



## 第6学年2組 学級活動学習指導案

平成28年11月22日(火) 第  
5校時

児童数 24名(男子12名女子  
12名)

指導者 岩 寄 誠

支援員 荻 谷 知 子

場 所 6年2組 教室

### 1 題材 「ちょっと待って、まずは大人に相談しよう！」

内容項目(2)カ「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

### 2 題材設定の理由

#### (1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく前向きに学習や学校生活に取り組んでいる。友達のよいところを認め合ったり、直した方がよいところを注意し合ったり、お互いに声をかけ合って生活している。放課後や休日は、運動系の習い事をしている児童が多い。学校では時々、インターネット(ネットゲーム)の話をしている児童がいるが、それほどインターネットにのめりこんでいる児童は多くないように感じている。そこでアンケートをとり、児童の実態調査を行った。

【事前アンケート(児童) 10/24(月) 実施人数24人】

<インターネット>

①インターネットを利用したことはありますか。 ある24人 ない0人
②自分専用のインターネット機器を持っていますか。 いる14人 いない10人
③インターネットの何を利用していますか、あてはまること全てに○をつけましょう。(複数回答) 動画17人 勉強(調べもの)14人 ゲーム13人 音楽12人 アニメ7人 ニュース6人 天気6人 映画3人 SNS3人 ブログ2人 ドラマ1人 LINE 1人
④次の中でインターネットにつながられると思う機器の番号に○をつけましょう。(複数回答) スマホ24人 パソコン23人 タブレット23人 家庭用ゲーム機17人 携帯ゲーム機16人 テレビ13人 携帯電話11人

携帯音楽プレイヤー 10人 デジカメ 5人 ＜スマホ＞
⑤自分専用のスマホ・携帯電話、タブレットPCを持っていますか。 いる7人 いない17人
⑥⑤で「いない」と答えた人に質問です。スマホや携帯電話をいつ頃持ちたいですか。(複数回答) 小学生0人 中学生5人 高校生10人 大学生2人 社会人1人
⑦スマホを手に入れたら何がしたいですか。持っている人は、何をしていますか。(複数回答) 勉強(調べもの)12人 LINE12人 ゲーム10人 動画10人 音楽9人 電話8人 ニュース4人 SNS(チャット)3人 メール3人 アプリ2人 天気2人 写真1人 絵(アート)1人 アニメ1人

アンケート結果を見ると、全児童の半数以上が自分専用のインターネットに接続できる機器をもっていることがわかった。そして利用しているものも多岐にわたっている。様々な機器を使用すると、知らず知らずのうちにネットにつながっているかもしれない危険性を感じ取れる。自分専用のスマホ・携帯電話、タブレットPCにおいては、既に約1/3が所有しており、まだ持っていない児童も近いうちに持ちたいと思っている。スマホなどで様々なことをしたいと考えている児童が多く、早いうちにネットの危険性について学んでおく必要がある。本学級は特別支援学級からの通級児童が一人いるため、支援員を一人配置する。

## (2) 題材について

総務省「情報通信白書 平成27年版」の平成26年末の情報通信機器の普及状況を見ると、「携帯電話・PHS」及び「パソコン」の世帯普及率は、それぞれ94.6%、78.0%となっている。また、「携帯電話・PHS」の内数である「スマートフォン」は、64.2%（前年比1.6ポイント増）と急速に普及が進んでいる。インターネットの利用頻度を見てみると、小学生で約72%、中学生以上では約97%である。

そのような中で、インターネットのルールやマナーを十分に知らない状態で利用してしまい、思わぬ事態に発展してしまう例も多いことから、本題材を設定した。

## (3) 指導について

本題材の内容は、児童が、これから購入すると思われるスマホを使う上でのルールをもとに、インターネットの危険性を考えていくものである。

アンケート結果を導入画面で活用することで、一人一人が自分自身の問題として課題をつかむことができるようにする。

「自分専用のインターネット機器を持っていますか。」という問いに対し、14人の児童が「はい。」と答えている。ルールやマナーを知らずに使い、一歩間違えると恐ろしい結果になるということを、動画を通して、原因や問題点をグループで話し合わせ、どうすればよかったかを協力して導き出せるようにする。

そして、自分の生活を振り返り、改善すべき点等を見直し、インターネットを利用する時に自らルールを守る態度を育てる。

### 3 研究主題との関わり

本校では、研究主題を「まごころをつくしあい、みんな仲よく、たゆまず学び続ける児童の育成」として研究を進めている。そのため、「①伝え合う児童、②認め合う児童、③高め合う児童」を、めざす児童像として、全教育活動を通して児童の人権意識を高め、一人一人を大切にすることを推進している。

本時は、人権教育上のねらいを「コミュニケーション能力」におき、問題行動やどのようにすればよかったのかを、他者との学び合いや対話を大切に、相手の考えや心情を受け止めながら、自分の考えを整理し、意見を調整しながらものごとをすすめることをねらいとしている。

#### 【手立て①】グループでの話し合い

自分の考えを発表し、友達の意見と交流することで、自分の意見を深める。

#### 【手立て②】付箋によるグルーピング

お互いの意見の共通点や相違点を認め合い、一つ一つの意見が大切であることを受け止める。

#### 【手立て③】教師による励ましや評価

状況に応じて、個別に励ましや称賛、アドバイスをを行う。

### 4 題材の目標

ネットワーク上のルールやマナーを守ることの意味について考えさせ、インターネットを利用する態度を養う。

### 5 指導と評価の計画

事前	題材を知り、アンケートにこたえる。	【関心・意欲・態度】 学習課題について真剣に受け止めている。
本時	課題について考え、約束事を決める。	【知識・理解】 ネットワーク上のルールやマナーを守ることの大切さに気付いている。 【関心・意欲・態度】 自分の生活を振り返り、改善すべき点等を見直している。
事後	自分の立てた約束事を実践し、振り返る。	【思考・判断・実践】 自分で決めた約束事を意識し、進んで実践している。

### 6 人権教育上のねらい（普遍的な課題「コミュニケーション能力」）



意見や考えを適切かつ豊かに伝え合い、わかり合える態度を養う。

## 7 人権教育上の視点

(1) 他者との学び合いや対話を大切にし、意見を調整しながら物事を進めようとしている。

(価値・態度)

(2) 相手の気持ちや考えを共感しながら聞き、自分の考えを再考することができる。

(技能)

## 8 本時の学習と指導 (本時 1 / 1)

### (1) 目標

ネットワーク上のルールやマナーを守ることの意味について考えさせ、インターネットを利用する態度を養い、自分の生活を振り返り、改善すべき点等を見直して約束事を設定することができる。

### (2) 展開

◎人権教育上

の配慮

段階	学習活動	指導上の留意点 (○) 評価 (☆)
導入 7分	1 アンケート結果を確認する。(意識化・共通化)	○認知度の状況により、パソコン、スマートフォン、インターネット、ゲーム機器などの補足説明を加える。
展開 33分	2 本時のめあてを理解する	
	3 導入動画を視聴する。	○児童への声かけをする。
	4 スマートフォンを買ってもらってから、のそみの生活はどのように変化したのか。また、悲惨な結末をむかえた原因となった行動は何だったのか。動画の内容を思い出して、出来るだけたくさん書く。(原因追求) ・スマホに夢中になって、お手伝いをしなくなった。 ・友達よりスマホに夢中になった。 ・プロフィールに名前と住所をのせた。 ・プロフィールに自分の写真をのせた。 ・会ったことのない人に心を許した。 ・知らない人と会った。 ・わからないことがあっても、自分で勝手に行動した。	・ふだんの生活はどうなったのかな？ ・友達との関係はどうなったのかな？ ・事件に巻き込まれるような行動をしていたのかな？ ・分からないことがあったら、どうするのか？
	5 グループ内で、「生活の変化や問題行動」と「どのようにすればよかったのか」について、自分の意見を発表しながら、付箋を同じ項目ごとにグルーピングする。	◎付箋を活用し友達と意見をだし合いながら、まとめさせる。(価値・態度) ◎相手の気持ちや考えをうなずいたり、反応したりしながら聞き、自分の考えを再考している。(技能)
6 グループごとに発表し、全体で共有する。		
終末 5	7 「スマートフォンを使う前に、決めておかななくてはいけない約束事」を解説動画を視聴し考える。(解決策)	☆ネットワーク上のルールやマナーを守ることの大切さに気付いている。(知識・理解)

分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットに名前・住所・写真をのせない</li> <li>・ネット上でしか知らない人に会わない</li> <li>・何かあったら、大人に相談する</li> </ul> <p>8 学習したことを振り返り、自分にあった約束事を決める。(個別化)</p>	<p>○児童への声がけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットに自分の情報は？</li> <li>・知らない人には？</li> <li>・何かあったら？</li> </ul> <p>☆自分の生活を振り返り、改善すべき点等を見直している。(関心・意欲・態度)</p>
---	--	--

## 9 板書計画

<p>&lt;めあて&gt;  <b>ルールやマナーを守って、インターネットを利用しよう!</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① スマートフォンを買ってもらってから、のぞみの生活はどのように変化しましたか。また、悲惨な結末をむかえた原因となった行動は何だったのでしょうか。動画の内容を思い出して、出来るだけたくさん書いてみよう。</li> <li>② グループの中で順番に自分の意見を発表しよう。</li> <li>③ 発表しながら、同じ項目ごとにまとめよう。</li> <li>④ 全体の中でグループの意見を発表しよう。</li> <li>⑤ スマートフォンを使う前に、決めておかななくてはならない約束事を考えよう。</li> </ol>	<p>&lt;もぞう紙&gt;  <b>めあて：ルールやマナーを守って、インターネットを利用しよう!</b></p> <p>生活の変化や問題行動</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">&lt;項目分けの例&gt;      ①生活の変化      ②友だち関係の変化      ③事件に巻き込まれる危険な行動様態 など</p> <p>どのようにすればよかったのか</p>
--	--